

# くにびき通信

2023年 6月号

大田市山村留学センター 三瓶こだま学園

## はじめに

最近ある買い物をしました。それは小さな一輪挿しです。高さは7センチほどで、てのひらに軽く収まるくらいの大きさしかありません。実はこのサイズの一輪挿しがずいぶん前から欲しくて探していましたが、今回やっと好きなものに巡り合えたので購入しました。今この一輪挿しは事務室の私の仕事机に置かれています。

センターの朝のつどいでは毎朝、自然の話をするのですが、時にはここで普段は雑草と呼ばれるような小さな草花について話をすることもあります。自分自身、改めてこうした植物に注目してみると、その色や形、時に香りは思いのほか素晴らしく、大きな花を咲かせる有名な植物にも引けを取らない美しさがあることに気づかされます。ただ、なにしろこうした植物は普段あまり目に留まらないので、その存在を目一杯感じられていなかったことも事実です。小さな一輪挿しが欲しかったのは、今まで見落としてきた、そんな野山の小さな草花を主役にできると思ったからです。

こうして私の机には日々、三瓶の自然から分けてもらった季節の草花が飾られることになりました。短いものと3日ほどでおれてしまうので、次は何を届けようかと日々自然の中を探し回るようになったのですが、サクラやフジ、アジサイなど誰もが知る美しい花を咲かせる植物の陰に隠れながらも、可憐な花を咲かせている草木がこんなにもあったのかと驚かされました。アカツメクサ、アザミ、ドクダミ、ハハコグサ、スイカズラ、ブタナ、ヘラオオバコ等々。

自分自身が自然を愛でる心を持ってこそ、子どもたちにもそれを伝えられると思いますが、この一輪挿しがきっかけで以前は見えていなかった草木に出会えるようになりました。それだけでも十分ですが、事務室に立ち寄った学園生が「今日の花は何かな」と見てくれでもすれば、なおうれしいものです。

指導員 浅平泰地



## 今回の活動カレンダー

日にち	活動内容
5月27日(土) 晴れ	ポッコ釣り・畑作業
5月28日(日) 晴れ	上立石交流会
6月10～11日(日) 晴れ	裏山キャンプ

日にち	活動内容
6月17日(土) 晴れ	畑作業・誕生日会
6月18日(日) 晴れ	個人体験準備・ホテル観賞



## ボッコ釣り 5/27 (土)



朝早く起床し、行きの車の中で二度寝したのもいい思い出。この日は海も凪いで日差しも程よく、釣りにはもってこいのコンディションでした。

釣りを経験している継続生たちは、新規生たちに釣竿のしかけの作り方など、サポートをしながら取り組んでくれました。最初は「釣れない…」と呟いていた新規生も、皆のやり方を見たり餌のしかけを変えたりしながら試行錯誤。その後「初めて釣れました！」と釣った魚を嬉しそうに見せてくれました。生きた魚を自分の手で釣るという体験は、とても刺激的だったようです！

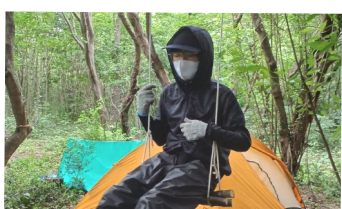
## 上立石交流会 5/28 (日)



山村留学センターが位置する「上立石自治会」の交流会では、同じ地域で暮らす地域の方々と一緒にグランドゴルフをプレーする時間を楽しみました。地域の方は、「打ち方はこうしたらいいんだよ！」と教えてくださったり、お昼のお弁当の時間では「どんどん食べて！」と手づくりのお惣菜を振舞ってくださり、学園生皆を大変可愛がってくださいました。

交流会後は、草原で様々な外遊び。木登り、フリスビー、シャボン玉…三瓶山の麓で大自然に囲まれながら、開放的な時間を皆で共有することが出来ました。

## 裏山キャンプ 6/10(土)~6/11(日)



6月最初の活動は、新規生にとってはドキドキの1泊2日裏山キャンプ。学園生はそれぞれ2バディ・1チームに分かれ、「自分たちの力で火起こしを行い、必須使用食材を盛り込んだ夜ご飯・朝ご飯を作って食べる」というミッションの遂行を目指し、キャンプに臨みました。ガールズ3人チームは新規生のみでしたが、事前に使用食材をもとにメニューを決め、厨房担当の細川さんに作り方を聞きに行くなど、用意周到な立ち回り。男子バディAは、新規生が火起こし係を一身に担い、継続生が柔軟にサポート・食材の準備を進める形でキャンプを楽しんでいました。

そして継続生バディB。小学生は今回唯一のブルーシートテント宿泊に挑戦とのことで、林に生えていた蔓を駆使しテントを設営。中学生は学んだロープワークで自作のブランコをつくるなどクリエイティブさが光る姿を多く見せてくれました。皆、無事夜・朝分の食事をつくりきり、また経験値を1つ積み上げることが出来ました！



## 畑作業 5/27(土)、6/17(土)



5月様々な夏野菜の苗と種を植えたセンターの畑。毎日朝の畑手入れを行ってはいましたが、梅雨の雨をたっぷり受け日差しをよく浴び、6月の半ばには野菜も雑草も、同じくらいよく茂って育っていました。今月メインで行った作業としては、「鳥よけの糸囲いづくり」「キュウリ・トマト・モロッコインゲンの支柱立て」の2つ。6/17(土)の畑仕事に関しては、9日間の農家入り期間が目前に迫っていたので、この日中に支柱立てを終えないと、学園生不在の間にどんどん野菜の背丈が伸びてしまうことに…！そのため今後の野菜の成長に期待を寄せつつも、皆いつも以上にテキパキ仕事を進めていたように感じました。中にはピーマンやキュウリ、トマトなど、早くも食べごろになっていた野菜たちも。途中トマトをつまみ食いたり水分補給をしながら、畑の環境を整備しました！

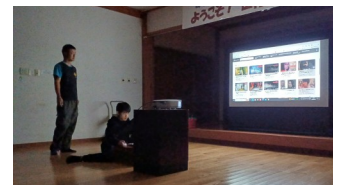


## 誕生日会 6/17(土)

畑作業を行った日の午後は、1学期に誕生日を迎えた&これから迎える皆さんをお祝いする、今年度初の誕生日会を行いました。

20期生は7人と人数が少ないので、系の種類や運営の仕方など、昨年と違う形をとりました。食事係4人と会場・企画係3人にそれぞれ指導員が入り、子どもも大人もフルパワーで誕生日会の準備を進めました。食事係の皆は全体にアンケートをとり、最終的に「中華メニュー」を作ることに決定。前日から餃子の具やラーメンの煮卵の仕込みをするなど、念入りな下準備を行って来ていました。会場・企画係の3人は、野外

での誕生日会を企画し、出し物は「肝試し」にしました。デザートのかき氷を食べた後は怖〜い動画でさらに肝を冷やさせて、スリリングな肝試しを演出してくれました！





## ＊学園生のみんなが手がけたメニュー紹介＊

キャンプや誕生日会でいただくご飯のメニューは、バディ・系のメンバーが相談して決めています！😊

### 【6/10(土) 裏山キャンプメインメニュー】

ガールズ3人作 親子丼(夜)  
男子バディB作 フレンチトースト(朝)  
男子バディA作 鶏肉とじゃがいも炒め(夜)



### 【6/17(土) 誕生日会メニュー】

食事係4人作  
・油淋鶏  
・豚骨ラーメン  
・手作り餃子  
・かき氷(カルピス、練乳味)



西村崇司のつぶやき

＼わたしたちはニワトリを1羽飼っている？／

3連発になりますが今回も新聞記事から。卵好きの日本では1人が1年に約330個の卵を食べていて、1億羽を超えるニワトリが飼われているとのこと。採卵と食用肉として飼われているので正確に採卵用のニワトリが何羽かはわかりませんが、話を単純化し「日本には1億人が住んでいて、毎日1個タマゴを食べ、かたや1億羽の採卵用のニワトリが飼われている」とします。ニワトリは1日に卵を1個産むので、わたしたちはニワトリを1羽飼っていることになると言って良いのでは、という記事でした。算数というか論理のおもしろさを感じます。いま、お店ではタマゴ1個が約30円でとても高くなったと感じますが、仮に毎日食べるとすると1日30円をかけてニワトリ1羽を飼うことになります。みなさんできますか。わたしはお金をいくらもらおうが1羽ですらニワトリを飼う自信がありません。

1970年代まで(昭和50年頃まで)、おそらく、国内の農山村の多くの家庭では採卵用のニワトリを飼っていたと思います。わたしの家も縁側の床下でニワトリを飼い卵を取り出すのは子どもの仕事でした。当時は昼間はニワトリを外に出していたのでその隙に卵をとらないと親鳥は卵をあたためるため居座るのでとることができません(とろとすると親鳥が怒り出しつつかれ手の甲は血だらけになったことは幾度もありました)。外で卵を産む親鳥もいるのでこの卵を探し出すことや、餌として貝殻の殻を割ったり畑に行き餌の毛虫をとってくることも休みの日の子どもの遊びがてらの仕事だったように思います。とってきた卵はあたたかく、大きさが1個1個違い、なぜか糞がついていることが多く「なぜウンコがついているの?」いつも思っていました。

昼間は庭や畑で放し飼いができた頃があったことは今から見れば奇跡的なことでしょうか、幼少期の子どもが放し飼いの家畜との生活があったり、そのなかで原始的な体験ができたことはとても良かったと思っています。いまの子どもたちがこのような体験をできる機会は専業農家をのぞいてほぼゼロです。しかし、人間より人間らしく文章を書いてくれるソフトが出てきて問いかけに一瞬で模範解答が出て来るようになってきて、「そもそも作文ってのが残るの」という気持ちがわかります。だからではないですが、鉛筆でしっかり書いたり色鉛筆で線や塗つぶしをしたり、定規やコンパスを使っていろいろな線やかたちを描いたりすることや、アリの動きをじっと見つめるといった原始的な営みはこれからもっと必要になってくる予感がします。

「くにびき通信」2023年6月号

大田市山村留学センター こだま学園



HP

〒694-0002 島根県大田市山口町山口1694  
TEL:0854-86-0700 FAX:0854-86-0701  
Email: o-sanryu@city.oda.lg.jp



大田市  
山村留学センター  
Sanbe Kodama Academy